

総合市民センター
 ☎(24)9511 ☎(23)7444
 ㊤祝日、年末年始

▼ガビン先生と楽しく学ぼう！

「日本の古典文学 恋」

＋ちょっとウラ話（全4回）

6月7日㊤、8月2日㊤、11月22日㊤、
 令和7年1月31日㊤／内容＝恋愛から
 見える人間模様／講師＝伊藤 雅敏先
 生／対象＝市内在住者／定員＝30人
 （申込順）／申込＝4月17日㊤9時か
 ら電話にて（土日は17時まで）



荻原市総合市民センターにて

十時～十一時三十分

令和六年八月二日（金）

更級日記
 枕草子

古今と新古今の遠い

鴨長明
 紀行文学 和歌からの俳句へ
 流れ

No.

ナナとウラ話 No. 2

日本の古典文学 恋



ガビン先生と
 楽しく学ぼう！



藤 香
 雅 野

雅也 ITO

春

2月2 旧暦123月

立春

24 旧暦12月後半21日前半

東風解凍 2/4 2/8 はるがぜ こおりをとく

東国ニち 春から夏々に吹く

本格的に氷を溶かすほどの暖かな風はまだ
少しづつ北風から移りゆく 春を運ぶ

黄鶯鳴喚 2/4 2/13 うぐすなく

黄鶯鳴うぐす ぬぶの中からホーホキキ

鳴っている姿を直接見たことからの

春の鳥 梅にうぐすう ぬじろは美し

魚上氷 2/4 2/18 うおこおりをいずる

魚 メダカ? シロウオ?

まだ氷が張っている 春の訪れを感じる

雨水

2/19

土脉潤起 2/4 2/23 つちのしょううるおいおきる

脉

凍とつく地面が柔らかくなってきた

カチカチから湿り気を感じる

霞始靄

2/24 2/28 かすみはじめたなびく

靄 たなびく 暖

天候が不安定 春霞 酒造歳元

春一番の風

草木萌動 3/1 3/5 そろそろめばえいずる

草木が萌えていく 春の訪れ

4 季

古代中国

節候

24 日本

72 候

雛まつり

草花の

太陽

草が陽を浴びて

群がるように

生きている状態

Spring

向かひ眺める
息がわく

草木の葉が

田畑を

気候は

万物が

ハル ③

張る

跳ぶ

咲ける

草花が生えている

幼根が土を刺して

(群がる)

く土に根をいれ

草 ↓ 花

花の色は

小野宮王(祖父)

雪にまじりて 見えざるとも

香もだにはほへ 人のしるべく

花の色は

小野小町(孫)

在原業平

文屋康秀

良岑宗貞

移りにけりな 徒に

我が身世にふる ながめせーまに

もうすぐ春をすねし 恋をしてみませんか

草木がたふさん生えてきて 行く手をはばむ

なすむ 泥む — 暮れなすむ 日がなかなか落ちて二日

更級日記

④

あはる地乃みちのまてよわもねたし

つるよけいふあまの人いつか

あやしかたむしを侍よがむいけ

え々ちもよかむ申は物かむといふ初め

あんなをいふんをねとにきい

はれしむるはるよわぬるまあね

まはるるとやうの人のその物さあ

かのものたりあ源氏乃あるやうなと

あづまぢのみちのはてよりも

東路の道のはて
常陸の国つゝ

(5)

猶^{なほ}おくつかたにおいでたる人

古今和歌三帖し紀友則の

いか許^{ばり}かはあやしかりけむを

あやしかりける
いやく蔵倉びな人

いかにおもひはじめける事に

世^よの中に物かたりといふ物のあんなるを

いかで見ばやとおもひつゝ

夕食後の団らん
宵居

つれづれなるひるまよひゐなほに

あねままはなごやうの人々の

ゆかり

源氏物語の世界に
あこがれる

その物がたりかの物がたり光源氏のあるやうなほど

ところぐかたるをきくにいとゆかーサー
未知のものに心ひかれる
見たに知りた
⑦

まされどわがおもふまゝにそのにいかでか

おぼえかたらむ。いみじくむとばきまゝに

等身に薬師仏をつくりて手

等身 背丈五尺ほど
薬師増瑞光如來
病苦を救う 現世に利益

あらひなとて人またみそかに入れつ

人のには間

「京にとくあげ給て物語のおほく候ふなる」

たまひ
ナガラ あるまうたが
候ふなる
一心不乱に
身をすてて
一心不乱に

あるかぎり見せ給へ」と身をすて、額をつき、

神に願う

いのり申すほどに十三なる年のぼりむと
急ぎ遠え
方向をさう
門出

市原市馬場の

九月三日かどでーていまたちといふ所にうつる。

更級日記

(8)

「東路の道の果となる常陸」などといわれるけれど

その常陸よりももと奥深い土地で育つ人

そんな私はどんなにみずばらく^離びてはろうに

どういう考えをしはじめてのか

「世の中には物語というもんがあるそうなの

なとかしてそれを読みたい」としきりに思うようになった

そんな時、ひまな時の昼間、宵の国なんなどに

姉・継母などの大人たちが

あの物語だ、この物語だ、ついに光源氏の暮らしぶりなどを

と二ろど二ろ話すのを聞いていると、私の物語へのあこがれは

つのも一方だった。けれども私はもうあまりのもどかーさに

（一部始終をもらんじてくれなも）

等身像の茶茶師如來を作ってもらい、手を

洗い清めたり、誰も見ていないすきに、こっそり仏間にこもって

「一刻も早く京に、都にはたくさんあるという、その物語を

ありったけ見せてくださーい」と一に不眠に

お祈り申し上げるのだ。たゞそうこつする内に十三になる年だった

いよいよ京に上る九月三日にひとまず門出をして、いまたちに着いた。

オタク女子

源氏物語を読みたい

京に行かないと手に入らない

都へもどる

源氏物語を読むチャンス

奥母から一部もらう

伯母から全巻もらう

ひとまず読む

東路の陸奥の果て

常陸国より奥に上総国?

源氏物語に登場する

浮舟

が生まれた地 常陸国



口ヶ地 聖地

あこがれ (菅原孝標女)

身分は高くない素人

健気ではない

押しに弱い性格

自分に重なる

宮仕えに源氏物語ばかり読んでいて何の才無し

王子様が現れおらず平凡な夫

勉強不足で力出せず

菅原孝標女の生きた時代

宮廷サロン

女性文学者が活躍……しらがなの飛達

+

本人は地方を知る 視野広く

清少納言

紫式部

藤原道綱母

和泉式部

10

下道細

藤原公家
道綱母 伯母
女

少女燭画や
ノベル小説ばかり
読んで勉強しな
でも才多きは
止められぬ

二 崑崙原考標

丁子

定義
基田
女
菅原孝標女
止あ

高階業遠

成行 人上 統大輔
成章 繼義西

繼義田

橋俊通

藤原宣孝

丁未式位

藤原為時（紫式部）

父36歲
菅原孝標女

10 歲 1017 寬仁元

菅原孝標 上總介

早知事

13 武 1020 寛仁 4

任期满了

9/3
上総國府出発

12/2 京に到着

上卷大補
離別

14歲
1021治安元

乳母 天
藤原 行成女

33
歲
1040
長久元

春橘俊通と結婚

翠耳下野守